

# 琉球大学学術リポジトリ

## 写真や図を中心にみる琉球の農作物主要病害虫 (27)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田盛, 正雄, Tamori, Masao メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/21189">http://hdl.handle.net/20.500.12000/21189</a>

B	1.6~2.0¢ 範囲の野菜	さんとうはくさい	だいこん(みのわせ)
		たいさい たまねぎ ほうれんそう きうり	からしな
C	2.1~3.0¢ 範囲の野菜	けっきゅうはくさい かぼちゃ	
		なす トマト さやいんげん にら ごぼう ねぎ	たまねぎ とうが キャベツ ほうれんそう

D	3.0¢以上 の野菜	セロリー ピーマン レタス	さやいんげん セロリー ねぎ ピーマン レタス にんじん きうり にら しゅんぎく なす ごぼう トマト さやえんどう マコモ はなやさい
		へちま にがうり	

(友利知子)

## 写真や図を中心にみる

# 琉球の農作物主要病害虫 (27)

### バナナ斑葉病

宿主：バナナ

**発生：**熱帯、亜熱帯のバナナ栽培地域に広く分布し、沖縄でも近年その発生がいちじるしくなった。夏から秋にかけて発生が多く、子のう胞子と分生胞子が風に運ばれて伝染する。

**病徴：**病原菌が侵入するのはおもに若い葉であるが、病斑はほとんど頂葉から4~5枚以下の葉にあらわれる。はじめ黄色の小さな斑点があらわれ、3~7日で葉脈に平行の黄色条斑になり、これは1~3日で黄かっ色に、3~10日で暗かっ色になる。その病斑の中心部は枯死して灰色に変わる。病勢がすすむと、病斑は増え、大きくなり、いくつかの病斑が結合して1面に広がり、葉全体が枯れる。病斑の大きさは、はじめ長さ3~10ミリメートル、幅1.5~2ミリメートルであるが、暗かっ色になった頃は長さ15ミリメートル以上、幅約5ミリメートルで、病状がすすみ、下葉あたりの病斑になると円形に近く直径が15ミリメートル

ル以上になる。

**病菌：**分生子柄は、葉の上面に多く、下面には少ない。多くは気孔から外に出る。分生子とともに淡黄かっ色である。分生子は一般にまがり、5~8個の隔膜があり、大きさは60~80×4マイクロンである。子のう殻は暗かっ色あるいは黒色で、成熟した葉の病斑上から殻口があらわれてややふくれあがり、子のう殻の直径は47~72マイクロンである。子のうはこん棒形で29~36×8~11マイクロン、子のう胞子は無色、1個の隔膜がある。大きさは14~18×3~4マイクロン、この菌の培養中における発育最適温度は25~26℃、分生子の発芽適温は29℃、子のう胞子の発芽適温は21~27℃である。

### 防除：

- 1 抵抗性の強い品種を栽培する。
- 2 防風垣のかげに栽培する。
- 3 発病葉を除去焼却あるいは地中に埋める。
- 4 薬剤を散布する。薬剤はマンネブダイセンをオイルと混用するとよく効くといわれて

いるが、オイルを使用するときは気候のちがいや使用法によっては薬害をおこすことがあるので沖縄に適する使用法は今後の研究をまたなければならぬ。

(田 盛 正 雄)

写真説明：

- 1, 2. バナナ斑葉病の病斑
3. 病原菌の分生子柄と分生子
4. 分生子の発芽
5. 子のう殻
6. 子のうとその中の子のう胞子

